

井 荻 小 学 校

6年間で培う読む力と資料を検索し活用する力

今の学校図書館

図書館は教室棟とは川で隔てられた別棟にあり、アクセスに多少の難があるが、授業利用は盛んで、ほぼ全クラスが毎週1時間図書館で活動をしている。

図書館での活動では教科単元にあわせて図書資料、デジタル共に様々な内容の資料に触れ、資料の探し方、調べ方の体験を積むことを重視している。

一方で読む力の向上のため、今年度は毎週水曜日の朝に朝読活動が導入された。当校策定の推薦図書「いおぎベストブック」108冊についても、児童が自主的に取り組む姿が見られ、日々の読書推進が浸透している様子が見られる。

学校図書館の運営

- ・学校図書館全体計画に基づき、資料利用指導、探究学習、情報活用、読書活動の各活動が学習単位と関連づけられ、運用されている。
- ・管理職、司書教諭、図書館担当教員、情報担当教員、学校司書からなる図書館運営会議で上記計画が策定されている。
- ・地域のボランティアは、①読み聞かせ②図書サポート③お話会 の3団体が活動中。読書活動推進の一端を担っている。

1年間の主な活動

- ・オリエンテーション・・・4月、全学級において実施。
- ・読書旬間・・・每学期1回実施。図書委員会による読書推進イベント、作品中の料理を給食で楽しむ「ブックランチ」などを行っている。
- ・幼保小連携・・・夏休み中に小学校図書館の見学、1月には5年生が幼稚園保育園を訪問した読み聞かせを実施。
- ・隣接する中学校や地域図書館との連携・・・作品の相互展示や資料の貸し借り、夏休み中のイベントの連携など。

特色ある取組

- ・校内を善福寺川が流れ、カワトンボやカワセミが訪れるという環境の中、川の水質改善や「愛鳥校」としての探究学習が複数学年に渡って行われ、図書館で学んだ情報検索、情報活用の応用の場となっている。
- ・児童は各自「図書館ファイル」を持ち、6年間の図書館利用指導、情報検索・情報活用指導を蓄積し、いつでも見返せるようにしている。
- ・出典、参考資料の書き方を体得できるよう、読書の記録シート「読書貯金通帳」を活用している。
- ・図書館にプロジェクター、スクリーン、タブレットが配備されており、図書館での学習や委員会活動の中で効果的、継続的に活用されている。
- ・当校策定の推薦図書「いおぎベストブック」の推進、下級学年や幼稚園・保育園への読み聞かせ活動、ビブリオバトル、POPの制作など、能動的に読書を楽しむ経験を通して読む力を養うことを目指している。
- ・図書委員が自主的に季節の展示を行っている。資料収集の実践として有効であるほか、下級生のたちの興味の広がりの一助ともなっている。

これからの学校図書

児童の幅広い知的好奇心や探究学習に対応すべく、次の取り組みを進めていきたい。

- ①読むことに苦手意識がある児童への支援として、LLブックやデジタル機器等を活用する。
- ②蔵書構成のうち、9類と絵本で過半数を占めるという偏りの解消、および蔵書の更新。
- ③児童が自分の力で資料に早く到達できるよう、書架配置や表示の改善。
- ④タブレット、インターネットを利用する上での著作権や肖像権、メディアリテラシー教育への支援。